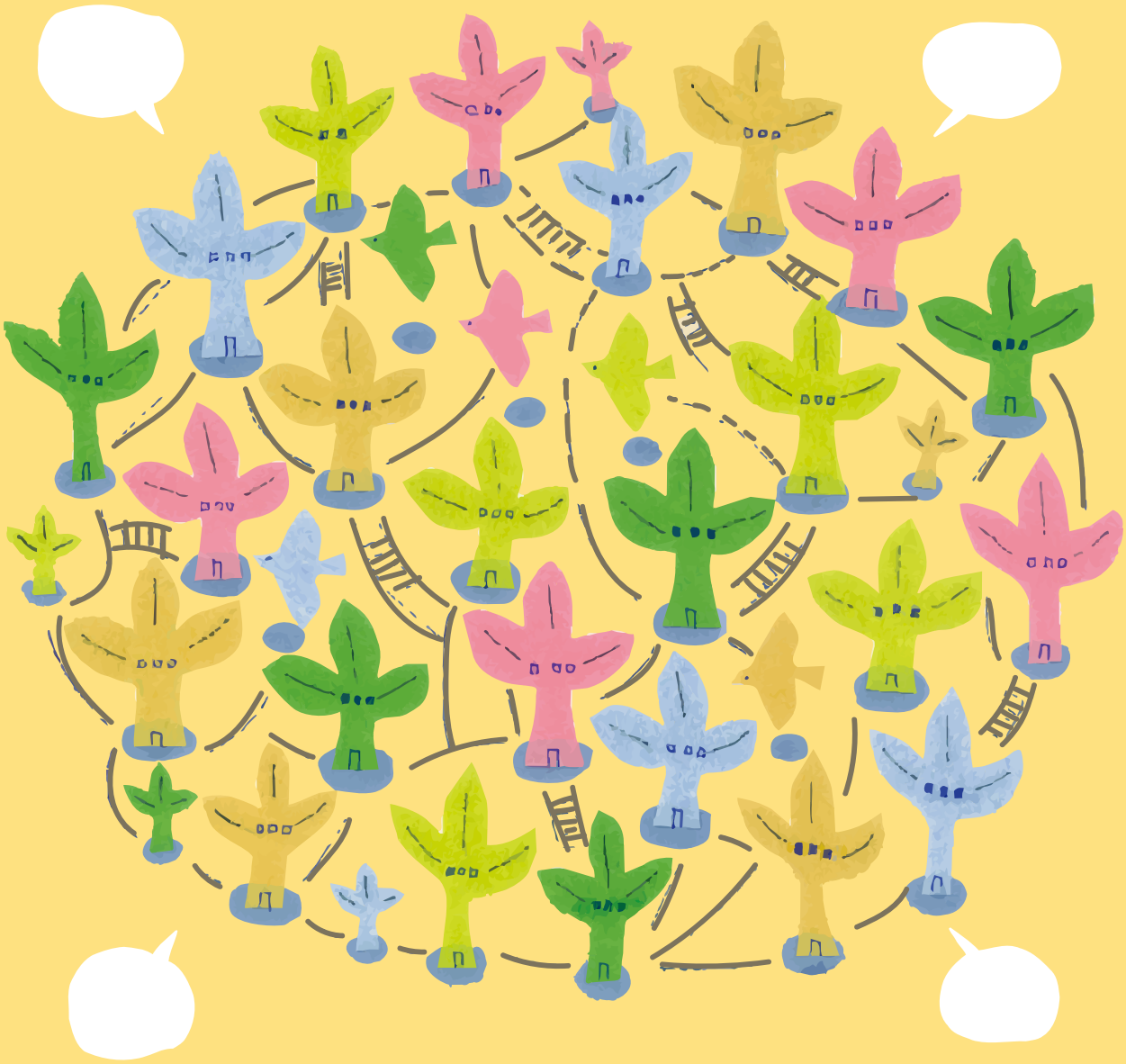
声なき SOS を官と民、多セクター連携により発見し支援を届ける



一般社団法人タウンスペース WAKWAK

はじめに

- 子どもの居場所づくりのノウハウを高槻市域・全国へ広げる -

2016 年、虐待の中で本人の努力ではどうしようもない状況の中、目の前で涙を流す女の子の姿に突き動かされるように当法人による子ども食堂の取り組みはじまった。

「いま、彼女にとって家に居場所がないのだとすれば、それにかわる居場所を地域につくる必要がある。」「居場所をつくるときには、大きな家族のように子どもたちが“ ただいま～ ”と言っていつでも帰ってこられる場所で在れたら・・」

社会福祉士として、同じ地域に生きる者として「自分には何ができるのか」、そう自問自答した末に事業立案し、地域・家庭・学校・行政・大学・企業等様々な方々の力をお借りして取り組みがはじまり、また高槻市域はもとより全国へ広がっていくこととなった。

あれからちょうど 10 年が経った。ある日、社会人となった当時の彼女からインスタグラムにメッセージが届いた。聞けば、独学で勉強をして介護士の資格を取り、北海道で元気に働いているとの報告だった。こどもの居場所づくりの原点となった彼女からはいつも多くのことを教えられる。

福祉や教育の現場に携わり、大学でも教壇に立ちながら、こうした居場所の取り組みはすぐさま子どもたちを劇的に変えるものではなく、本当に長い時間をかけて培っていくものだとつくづく思う。地域に根づいた取り組みをしていると、居場所に参加していた子どもたちが成長して高校生や大学生のボランティアとして帰ってきてくれることや、大人になってさらにその子どもたちに関わることもめずらしくない。世代を超えてかかわりが生まれ育まれていく、それが地域でのあたたかいつながりの循環を生み出していく。

当法人では、法人の拠点である富田地区で子ども食堂をはじめとする居場所づくり事業を行いつつ、それらを 2021 年度に高槻市域全域に中間支援団体としても広げた。さらにそこで得られたノウハウを全国に発信している。

今回、WAM 助成を通して行った実践は物価高騰により社会的不利を抱える住民により一層の不利がかかる中で、高槻市域全域の子ども支援団体や市民団体、企業、学校、大学、行政等多セクターとの共創を通じて、「（社会的不利を抱える人も）誰も取りこぼさないまち」の仕組みづくりはいかにすれば構築でき得るのか、その試行錯誤の軌跡である。

このレポートがこれまで当事業へご支援を頂いた、たくさんの方々へのご報告となること、この取り組みのひな型が全国各地の子ども食堂をはじめとする居場所づくりの一助となることを切に願っている。

当事業にご支援をいただいているすべての皆様へ感謝申し上げる。

一般社団法人タウンスペース WAKWAK
業務執行理事兼事務局長
岡本　工介

もくじ

はじめに …… 3

もくじ …… 4

事業概要 …… 5

全国の支援のフロントランナーをめざして …… 6

地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク …… 7

小地域の包括支援のネットワークづくり …… 10

高槻市域各地の取り組み …… 12

企業との協働による食支援のしくみづくり …… 20

調査報告「高槻市における緊急支援とネットワーク形成の現状と課題 …… 24

法人紹介-タウンスペースWAKWAK …… 26

協働事例 1 地域との協働　まちづくりに住民の力を活かす …… 28

協働事例 2 大学との協働　まちづくりに大学生の力を活かす …… 29

協働事例 3 地元学校園　「ゆめみらい学園」との協働 …… 30

協働事例 4 企業との協働　「SDGｓ」パートナーシップの実践 …… 31

トピックス-1　マスメディアでの紹介（内閣府政府広報） …… 32

トピックス-2　マスメディアでの紹介（日本テレビ24時間テレビ放映） …… 34

トピックス-3　全国に発信し他地域の課題解決の一助に …… 36

ご支援のよびかけ …… 40

ご支援いただいたみなさま …… 42

あとがき …… 44

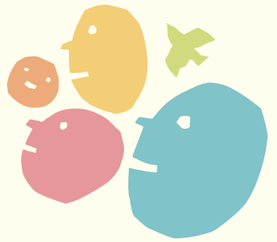
法人沿革 …… 45

事業概要

声なき SOS を官と民、多セクター連携により発見し支援を届ける

　物価高騰により生活困窮者や社会的不利を抱える住民に一層の不利がかかる中、地域に潜在する声なき SOS を発見し、民と民、官と民連携により地域全体で支える ことを目的に、市域全域において地縁組織、NPO、フードバンク、行政、社協、企業、大学と協働し食・生活・制度への伴走支援を一体的に実施する。

　同時に分野を超えた多セクター連携の生活困窮者の支援ネットワークを市町村単位で創り出す。これら多様な分野の支援団体との相互連携や包括支援を行うことで、民と民、官と民による誰も取りこぼさない地域を生み出す。これらを通じて得られた知見を大学等との協働研究により明らかにし、メディア等を通じて広く他地域へと波及する。



全国の支援のフロントランナーをめざして

―富田地区の実践を高槻市域に広げ、全国のモデルにー

私たちはこれまで中学校区を対象に支援のひな型を創り、それを全国に広げ他地域の課題解決の一助になることを願い微力ながら活動してまいりました。

しかし、2020 年に新型コロナウイルスの感染が拡大。緊急支援プロジェクトを行う中で社会的不利を抱える子どもや家庭がより一層不利に置かれている現状を目の当たりにしてきました。そのことから 2021 年度法人のコンセプトも対象範囲も体制もすべて組み換え、市域広域事業へと着手しました。

そこで、市域全域を対象としたネットワークを生み出し、2025 年度には子ども支援団体をはじめとした様々な団体のみなさまと支援のすそ野を広げています。

私たちがめざすのはこれからみなさんと創る取り組みを全国モデルとして発信し全国の支援のフロントランナーとなることです。

新たなチャレンジへと踏み出す当法人へぜひ継続したご支援はもとより新たなご支援をよろしくお願い申し上げます。

アクションネットワーク

地域から広がる第 3 の居場所 アクションネットワーク

●趣旨

高槻市内において子ども分野をはじめ多様な活動を行う団体、企業、大学、学校、行政、医療関係、個人等の関係者が一同に会し、顔を合わせ、情報交流 をする中でゆるやかなネットワークを築く。

●会の３つの機能

①ネットワーク間の顔がつながる
②情報交流と助け合い
③支援構築に向けたアクション

●会の方向性

①民間だからできるアクションを進めながら
　将来的には「官」(行政等)とも協働
②コロナ禍、緊急性の高い社会的不利層へ
　の支援からはじめ様々な層へ広げる
③子ども分野からはじめ障がい、高齢、外国
　人支援分野等へ広げる

●具体的な動き

①団体さん同士それぞれの動き ヒト・モノの
　交流や協働等
②事務局主導の動き
　フードパントリーサテライト、企業支援のしくみづくり、校区ネットワークづくりの伴走など

アクションネットワーク参加者の内訳

セクター分類	団体数（団体）	参加人数（名）
市民活動団体	56	103
企業	8	14
大学・学校	5	19
宗教関係	4	6
医療関係	4	6
個人	19	19
合計	96 団体	167 名

(2026 年 3 月 31 日現在)

団体登録は96団体、ご参加いただいた方は 167 名（2026 年 3 月時点）になりました。

団体、企業、大学、個人のほか宗教関係者、医療関係者にもご参画いただけることになり、おかげさまで想定以上の多セクターでの横のつながりが実現しています。

●ネットワーク会議の開催

対面とオンラインのハイブリッド形式で、隔月ごとに参加者が集まり情報共有を行います。

対面会場として富田（コミュニティスペースNikoNiko)、平安女学院大学、協働プラザ（紺屋町)、西法寺（東天川)、地域ひといき（大塚町）それぞれご協力いただき開催しています。

「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」も第 21 回の開催に

認定NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ（湯浅誠理事長）による休眠預金助成「居場所の包括連携によるモデルづくり事業」を契機として 2021 年 11 月に発足した「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」も 2025 年度末には高槻市内 96 団体を超え、年 4 回をめどにネットワーク会議を開催しています。オンライン（ZOOM) 形式と対面での形式を併用して開催しています。

会では、新規団体の紹介や団体同士の交流、新たな取組の報告、学習会など多様なメニューを行っています。

浄土真宗本願寺派島上組からは昨年に引き続き今年度も檀家さん等がお米を持ち寄って子ども食堂等に寄付する「ほっとけ米（まい）プロジェクト」の決定の報告や新谷先生（同志社女子大学）による調査研究をはじめ会を重ねるごとに高槻市さんや社会福祉協議会さんも参加いただけることとなり、「子ども食堂等を通じた多職種協働の地域づくり」に向け確実に地域に広がっていることを参加者のみなさんで共有できる会議となっています。

小地域の包括支援のネットワークづくり

市域全域を対象としたネットワークの構築の動きと並行して、小学校区や中学校区単位での小地域の包括支援の仕組みが広がっていくよう市内において南と北、それぞれのエリアのモデル校区を定め、地域の団体の皆さんとともにネットワーク構築に動き始めました。

桜台エリアで
団体間のネットワーク構築

桜台エリアでは地元の医療機関「しらかわ・いもとクリニック」の白川先生のお声がけのもと入らせていただくこととなり、校区で活動されているみなさんとのネットワークをつくっていく流れとなりました。

ネットワークにはナーシングホームさん、うえだ下田部病院さん、えん食堂さん、ふうせん文庫さん、じゃんぷ学童クラブさん、桜台みんな食堂さん、民生児童委員の小野さん、堤コミュニティセンターさん、桜台小学校さんにも加わっていただいています。

この校区では、子ども食堂のチラシを共有すると、広報のお手伝いや子どもたちが安全に通える道の提案、場所や食品の提供など、事務局との協議だけでは生まれない、地域の方々ならではの情報交流が行われています。「食支援」「子ども食堂」「文庫活動」「子どもが集うイベント」とやりたいことはそれぞれ異なるものの改めて「居場所」をキーワードに想いを分かち合う場が生まれています。

高槻の北エリアでの
団体を超えたネットワーク構築

高槻の北エリアでは、NPO 法人三島子ども文化ステーションが中心となり、親子の居場所作り『おかえりひろば』を 2022 年 6 月にスタート。地域の誰もが参加できる居場所づくり、「第３の居場所」にするべく北エリアの様々な団体や大学、シニア層の団体とも連携しながら運営をスタートしています。2024 年度からは毎月実施。

広場のスタッフ・地域のボランティア・平安女学院大学や関西大学の学生達もサポートします。ここでは、地域の様々な支援団体と連携して高槻市の北部地域での拠点づくりを目指し活動しています。

緊急食糧支援

市域全域のネットワークの中でとりわけ生活困窮家庭をはじめ社会的不利を抱える層が集住する市内の公営住宅５エリアにおいて活動する子どもの居場所を運営する団体に呼びかけ、それぞれの活動場所において、食材配布を行いました。

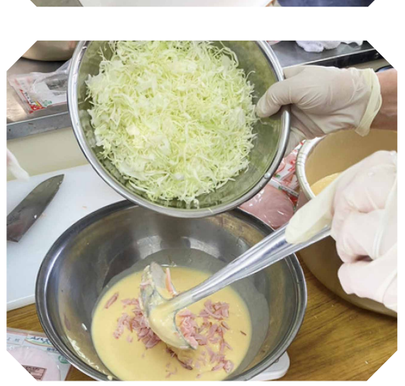
また、高槻市の子育て支援を担当する部署や社会福祉協議会とも連携し、生活困窮家庭やヤングケアラー、ひとり親家庭や特定妊婦の方々などにも食材等の緊急食糧支援を行いました。

市域各地の取り組み

おかえりひろば

活動概要

日　時：毎月 1 回　第 4 日曜日 10:30 ～ 14:30
場　所：高槻市立川西コミュニティーセンター
参加費：昼食代、保険料込み 200 円 / 人
対　象：地域の親子、学校や家庭、その他この場所を必要とする家庭
定　員：50 名または 100 名
内　容：①食事提供、②常設あそびのひろば（ボードゲームや昔遊びを設置し自由に過ごせる場）
③体験活動や企画（ネットワーク構成団体や外部講師が担当する）



主催：おかえりひろばネットワーク
連携･協働団体:高槻市社会福祉協議会（ボランティアの斡旋、食材の支援）

活動支援による成果や様子

地域の多様な大人 (ボランティア、大学生、高校生) と子どもが関わる機会が増え、安心して過ごせる第三の居場所として定着する。「おかえりひろば」を通じて、地域の異なる子どもたちが知り合い、コミュニケーションを取り、共に経験を積む意義を実感している。特に、学校や家庭で閉塞感を抱える子どもたちにとって、安らぎの場としての必要性を強く感じている。食材支援を受けることで、栄養を考慮したメニュー作りが可能になっており、「食を通じた学びと成長の場」として、みんなで同じテーブルを囲むことで、食事マナーや感謝の言葉を自然に学ぶ機会となっている。

今後の課題

参加費を 200 円で抑えるために、昼食提供のための食材や消耗品の寄付や助成金の獲得が必要であるが、それにかかる人員、労力が不足。また確実に助成されるとは限らないため常に財政面での不安がつきまとう。また会場が公共施設のため日程の希望が叶わない事や子どもの視点にたった使用ルールではなく厳しいと感じる。子ども真ん中社会の実現は厳しい。

六中いばしょネットワーク

活動概要

高槻市立第六中学校校区で子どもに関わる支援活動をしている団体をつなぐ組織として活動しています。主な活動内容としては、六中で開催される秋フェスタに参加、支援団体を掲載したマップの作成、定例会の開催です。

今年度は助成金を活用し、各団体の活動を支援しました。

活動支援による成果や様子

福祉委員会主催のきたかん冬まつりでお菓子作りを行いました。ペルー出身の講師を招き、40 組程の地域の親子とペルーのデザートを作りながらペルーの言葉や文化についても教わりました。多文化を知り、触れ合える良い機会となりました。

高槻教会の夏期キャンプでは、子ども達が大自然の中で森遊び･キャンプファイヤー･オリエンテーリング･スイカ割りなどに喜んで参加してくれました。携帯電話が繋がらず、普段ゲームばかりしている子ども達もデジタルデトックスになったようです。

食事は食堂で準備されたので、スタッフはプログラムに専念できました。今回、支援を活用できたことで参加費が抑えられ、子ども達が参加しやすく大変助かりました。

今後の課題

活動を支援する側（ボランティア）の人員確保。サポートを必要とする方とつながり、参加してもらうこと。小学校区毎に偏りなく支援を展開すること。（こども食堂が 2 か所ありどちらも満員に近い参加者が集まっている校区がある一方、子ども食堂が無い校区もあります。）

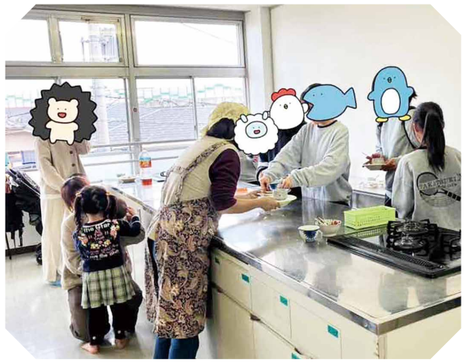
連携・協働団体：えん食堂つむぎ、大冠ふれあい食堂、かふう助産院、北大冠地区福祉委員会、子どもの 居場所懇談会、日本キリスト教団高槻教会、わはは文庫 ほか

桜台みんな食堂

活動概要

　毎月１回、地域の多世代交流を目的とした共生食堂を開催しています。高齢者から子どもまで約２０名が参加し、食事提供と支援物資の配布を行なっています。

　誰もが安心して集える居場所づくりを通じて、地域内のつながりと支え合いの輪を広げています。



活動支援による成果や様子

　支援を活用し、共生食堂の運営を安定して継続することができました。食材費や支援物資の充実により、参加者が安心して利用できる環境を整備しました。また、地域祭りでの協力に対する謝金にも活用させていただき、地域との連携強化にもつながりました。高齢者から子どもまで多世代が自然に交流する場として定着し、見守りや助け合いの意識向上にも寄与しています。

今後の課題

　より安心して参加できる環境づくりや、周知の工夫が課題です。

　また、外から見え辛い困窮などへの対応について、関係機関と連携しながら早期発見と適切な支援につなげる体制づくりも必要だと考えています。

キヨサキあーちゃん食堂

活動概要

　月に１度土曜日もしくは日曜日に開催しています。

　開催時間は 11 時 30 分から 13 時までで食事の後、本の読み聞かせ、工作等お楽しみ行事を行っています。また、月に１度高槻市柱本地区を中心にパントリー（お弁当配布　時間は夕方 17：30～18：30）【外国にルーツのある子ども達の家庭をはじめ、さまざまな社会的不利を抱える子ども・家庭に食の支援】を実施しています。

活動支援による成果や様子

　今回の支援を通じて物価高騰の今色々な食材を購入することができ、食の提供という面に対し子供も親も十分満足していただいたと思います。

　また、こども食堂とパントリーを同日に行うことが多くなり作るメニューもこども食堂とパントリーのメニューを変化させ工夫して作ることが出来たのも助成金のお陰だと感謝いたします。

　毎月毎月欠かさず参加してくれる子ども達の笑顔が増えてきたと感じます。

今後の課題

　今後こども食堂・パントリーが継続できるよう支援していただける団体（個人も含む）を増やしていく。

アッテモ子ども食堂

活動概要

主に阿武野小学校・中学校区の子どもたちの居場所づくり、食事を通じての交流を目的として８月、12 月を除く毎月第３木曜日の16:00～18:30 にアッテモ子ども食堂を高槻バプテスト教会１階集会室で開催しました。

12月は20日（土）の昼に高槻バプテスト教会の教会学校のクリスマス会と合同で子ども食堂を開催しました。

活動支援による成果や様子

食材費支援により、肉類など食材を十分買うことができ、子どもたちに栄養バランスの取れた食事を作ることができました。

阿武野小学校でもチラシを配って下さっていることもあり、継続して子ども食堂に来てくれる子どもたちも増え、保護者の方々にも少しずつ居場所として認識されてきました。

今後の課題

今回は食材費の助成があったので、バランスの取れたおいしい食事を提供することができましたが、限られた予算で今後どのように運営していくのかが課題です。

主催：アッテモ子ども食堂運営委員会

フリースクールはらいふ

活動概要

高槻市“原”にある自然豊かな古民家で、10 代が自由に学び、過ごせるフリースクールを開いています。こども自身の自己決定を大切にし、人や社会とどうつながって生きていくのかをゆっくり探しながら過ごせるところです。

不登校や高校中退等に関する無料での相談や、必要な支援機関につながるためのサポート、来所が難しい方へ向けた送迎や、昼食の提供なども行っています。

活動支援による成果や様子

週４回の開室日には毎日作っている昼食提供に活用させていただきました。学校に行けない・行かないこどもたちに、給食の代わりになる健康的なご飯を日常的に提供し、食を楽しむ機会になればと思っています。希望する子どもたちとは調理活動も一緒に行っています。

支援によって物価高の中でも、料金を上げることなく、こどもたちからのメニューのリクエストも踏まえながら取り組みを継続することができました。

またフリースクールにも来所することが難しくなってしまう方や、スクールの減免・減額が必要なご家庭等に、食料品をお届けすることをきっかけに、コミュニケーションをとる機会として活用させていただきました。

今後の課題

各所から食材の寄付などもいただいていますが、毎日の活動ですので物価高の影響もあり年々食費は増加しています。特にお米の購入費用はここ数年かさんでいます。活動を継続していくべく、寄付していただける方などをもっと開拓していく必要があると感じています。

主催：一般社団法人はらいふ

たべねろ / リピネロ

活動概要

大阪府高槻市を拠点に子ども若者のフリースペース「食べて､寝ろ」/ 少人数で過ごす “ おひとりさまの日 (予約制)”「リピートして、寝ろ」を OPEN しています。普段使いができる場所として、夜の居場所と高校内で場づくりをしています。

食や創作、季節行事を通じて、子ども若者たちと、“ 振り返ることのできる思い出 ” を作っています。

活動支援による成果や様子

食を通して子ども若者たちの「好き」「苦手」「わからない」を知り、創作活動や季節行事では、大人も子ども若者も互いにサポートし合う時間を過ごしました。食事や創作活動は、同世代同士の関係を作るツールとして子ども若者たちの緊張を解きほぐし、緩い場を作ることにつながりました。

また、子ども若者一人ひとりと過ごす時間では、互いに近況や過去の思い出をポツリと話すこともあります。

マクドやフードコートほどオープンではなく、相談支援ほどクローズな場所ではない “ たべねろ ”” リピネロ ” が子ども若者たちの選択肢のひとつになっていると感じます。

今後の課題

子ども若者を取り巻く環境や心情の変化は必ず訪れ、同じ場所に留まっていられない理由がやってくると思っています。

子ども若者ひとり一人にとって居心地の良い空間や時間、必要な情報を届けられるように、他団体と連携し繋がっていきたいです。

主催：一般社団法人 later on

第３の居場所にこにこ

活動概要

にこにこは第三の居場所として老若男女問わず話せる居場所としてオープンしました。食事を介して少し気持ちを緩めていただき、話していただくことでストレスに思っていることやしんどいことをはきだしていただく。地域の穂都の居場所、また親子の居場所、子ども食堂として利用していただいています。会話からスタッフが傾聴させていただきます。

活動支援による成果や様子

地域のお年寄りの個食に役立ち、子どもたち同士で安心、安全な場所としてご飯を食べて頂き遊んで帰ってもらえました。妹がな、お母さんがなといろんな話をして帰って行ってくれます。次のにこにこのメニューも何がいいか子どもたちと相談したりしています。また、お母さんの育児の悩みをお茶しながらのんびり話したり、スタッフにより相談機関へご紹介させて頂いたりしました。妊娠中のお母さんがご飯作るのがしんどいからとお父さんと子どもで来場していただき、お母さんの負担を減らせたと喜んで帰って行かれたおとうさんのえがおも印象的でした。

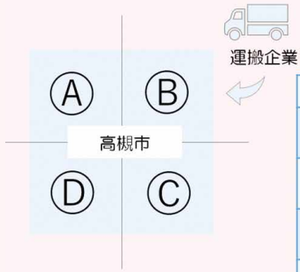
今後の課題

もっともっといろんな方に利用していただくために回数を増やしたい。仕事との両立をどうしていくか思案中です。周知活動としていろんなイベントをしていきたいなと思っています。

企業との協働による食支援のしくみづくり（第１期）活動報告

企業との協働による食支援のしくみづくり（フードパントリー）

第三の居場所アクションネットワーク
（子ども食堂運営団体他×参画企業）



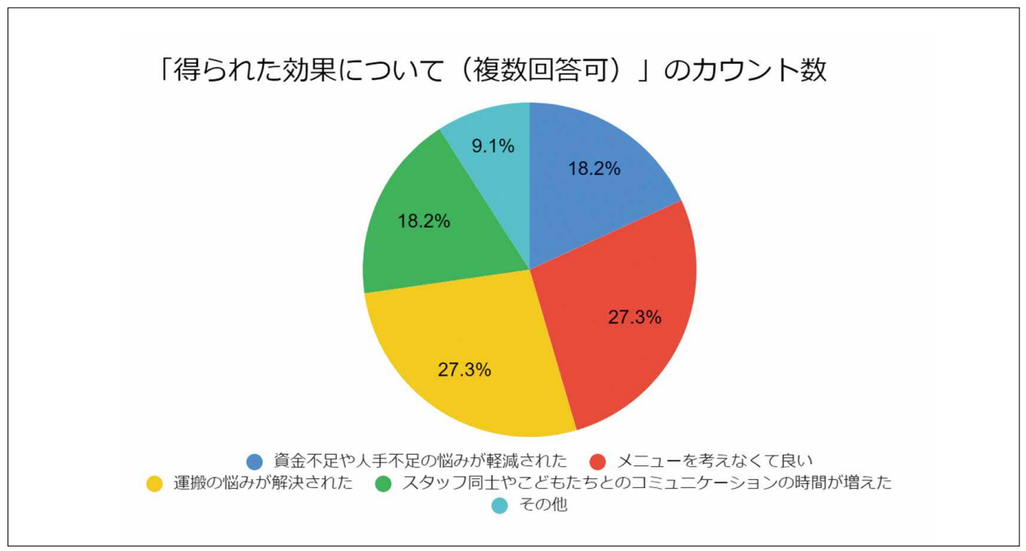
※提供イメージ

	Ⓐ拠点	Ⓑ拠点	Ⓒ拠点	Ⓓ拠点
4月	企業１（食材）	企業３（デザート）	企業２（お弁当）	―
5月	―	企業１（食材）	企業３（デザート）	企業２（お弁当）
6月	企業２（お弁当）	―	企業１（食材）	企業３（デザート）
7月	企業３（デザート）	企業２（お弁当）	―	企業１（食材）

食支援を市域全域に広げるべく、市域広域事業「第三の居場所アクションネットワーク」を通して市内の子どもを対象に食支援を実施する団体（子ども食堂に限らない）と、企業との協働による食支援のしくみづくりの第１期が無事に終了しました。株式会社ミートモリタ屋さまからは食材、お弁当、ゼリーを、株式会社彩回転寿司喜楽さまからはお弁当や冷凍ケーキをご提供いただきました。

さらに、株式会社甲和ビルドふくろうのおうちさま、テニスガーデン高槻さま、株式会社宮田運輸さまよりご支援をいただき、さらに充実した食支援を届けることができました。また、株式会社宮田運輸さまにはそれらの提供物資を各支援団体へ運搬していただきました。おかげさまで４つの拠点を通して、総計 1,138 食のさまざまな食を子どもたちに届けることができました。

取り組みの趣旨にご賛同いただき、こうして１年間ご協力いただいたこと誠に感謝申し上げます。



企業との連携事例

株式会社ミートモリタ屋さま

食材やお弁当、ゼリーなど年間 12 回 805 食の食材をご提供いただきました。のべ 21 か所の拠点に支援を届けることができました。食材はカレー、焼きそば、ハヤシライス、お好み焼きメニューを想定して必要な食材をご用意いただきました。

馴染みのある街のスーパーが、たくさんの食材などを提供してくださることに、非常に驚きました。
食材の値段高騰の中とても助かりました。

どれも美味しくいただきました。「どのモリタ屋さんからきてるんだろう？」と子どもたちは話していました！

株式会社彩　回転寿司喜楽さま

豪華な海鮮弁当をはじめ、アイデアをいただきながら冷凍ケーキなど年間８回 333 食の食材をご提供いただきました。

ちらし寿司はこどもたちから「豪華！」という声が上がっていたので、難しい部分もたくさんあるのだろうと想像しますが、その分喜ばれていたと思います。

冷凍ケーキに子供たちは大変喜んでいました。

株式会社宮田運輸さま

宮田運輸株式会社さまには、年間 17 回月に１～２回の運搬をいつも快く引き受けてくださり、丁寧に運んでいただきました。

子どもたちは毎回デザートを心待ちにしていて、デザートがない日はがっかりするどころか、文句を言われます（笑）今後も活動をって見守ってくださいますと、幸甚です。

いつも笑顔でお届けいただきありがとうございます。こどもミュージアムの取り組みを子どもたちに話に来ていただけると嬉しいです。

応援をいただいた企業のみなさま

（株式会社甲和ビルドふくろうのおうちさま）
（テニスガーデン高槻さま）
（株式会社宮田運輸さま）

主にデザートをお届けする際には、みなさまから応援金を活用して提供させていただきました。

企業との連携事例

サンユレック株式会社

サンユレック株式会社

サンユレック株式会社さま（合成樹脂メーカー、本社：高槻市道鵜町）よりご寄付のご相談をいただいたことがきっかけで「サンユレックにっこりプロジェクト」がスタートしました。

これまでの連携

2024 年度　・サンユレックにっこりプロジェクト第１弾
　　お菓子パック　300 セット　９団体へお届け
　　・サンユレックにっこりプロジェクト第２弾
　　クリスマスケーキ　52 個　９団体 276 人へお届け
2025 年度　・サンユレックにっこりプロジェクト第３弾
　　お菓子パック＋エコバック 350 セット　10 団体へお届け

ご寄付の届け方

　企業さまからのご寄付やプロジェクトのご相談では、ご支援への想いをお伺いし、ご支援内容をすり合わせていきます。
　今回は、「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」の参画者に限定して案内し、居場所の運営者さんからの応募を募りました。
　第１・２弾では、結果として子ども食堂をはじめとした第三の居場所 11 か所のべ 576 人の子どもたちにお菓子やケーキを届けることができました。また、その内のべ６か所には企業社員さんが実際に訪問することで、直接お菓子やケーキを手渡したり、お仕事について子どもたちに伝えてくださったりと交流が生まれました。
　第３弾も同様に応募を募り、前回からリピートのお申込みが殺到しました。「また、サンユレック様がどんな会社か皆さんにお話ししてほしいです。」「以前いただいたアイスケーキがまだこどもたちの記憶に残っているようです。」とのメッセージもいただきました。

メッセージ

総務部総務グループ木村さま (写真左)

地元企業として高槻市の子ども食堂さま・子どもたちに食支援をされている団体さまへ、子どもたちの「にっこり」のお手伝いができればと思い、タウンスペース WAKWAK さまとの「サンユレックにっこりプロジェクト」として、心ばかりの贈り物をお届けしました。

当社といたしまして今回、初めてお子さま達への支援をさせていただくにあたり、タウンスペース WAKWAK さまの多大なるご協力を賜り、2024 年 10 月～ 11 月に第１弾としてお菓子パックを、第２弾として、12 月にクリスマスケーキを無事にお届けすることができました。

実際に訪問させていただいた団体さまにおいては、お子さま達、運営者さまと直接交流する機会をいただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。

お子さま達の可愛らしいにっこり笑顔や、運営者さま、ボランティアさま（大学生、高校生含む）の子どもたちを応援し支援されている実際のご様子を見て、子ども達に対する優しくてあたたかな気持ち、その「力強さ」をひしひしと感じ取る事ができ、私たちも頑張らなければならない、という気持ちになりました。今後も、どういう形になるかはわかりませんが、子どもたちの「にっこり」のお手伝いができたら、と考えております。

タウンスペース WAKWAK さま、プロジェクトの趣旨に賛同しご協力いただいた運営者のみなさま、本当にありがとうございました！

タウンスペース WAKWAK より

この度のお取り組みに心より感謝申し上げます。サンユレック株式会社さまからの多大なるご支援への感謝とあわせて、当法人においても「ひとりぼっちのいないまちをつくる。」というビジョンを実現させるべく、今回のご支援を通してより一層高槻市内のネットワークを広げていきたいと考えております。

ご支援の広がり

「子どもたちの未来のために」をキーワードに企業や個人、お寺さんなどご支援の広がりが生まれています。

サンスター（株）アメニティ製品

丸大食品（株）食材支援

コニカミノルタ（株）
フードドライブによるご支援

「天台宗　神峰山寺さん」お菓子の提供などなど

　浄土真宗大阪教区島上南組の本田組長が６合のお米を 350 セットお届けに。西組のみなさまからはご寄付も。
　「お米をひと握り（一合）持ち寄りほっとけ米（まい）プロジェクト - こどもたちを育むために -」を目的に高槻市内の浄土真宗本願寺派 34 ケ寺のみなさまが各寺院を通じて門信徒さんや地域のみなさまより募ったお米を支援物資として贈呈。

調査報告「高槻市における緊急支援とネットワーク形成の現状と課題

1. 調査概要

本調査は、大阪府高槻市でこども食堂やフードパントリーなど地域支援活動を行う団体を対象に、緊急支援の実態とニーズを明らかにすることを目的として実施した。本報告書では、高槻市内８件（調査期間：2026 年 1 月 19 日から 2 月 6 日、Google フォームによるオンライン回答）の内容について報告する。小数点以下を四捨五入して表記する。

高槻市内の団体は「こども食堂」(75%)、「居場所」(63%) を主たる活動形態とする「場づくり」型が多く、月 1 回程度 (75%) の活動頻度が中心である。常勤スタッフ 3.6 人、非常勤スタッフ 5 人、ボランティアは平均 7.5 人程度で、支援対象には、ひとり親家庭 (63%)・不登校・ひきこもりのこども (50%) も含まれる。

2. 緊急支援の実態

（1）緊急支援の経験と内容

緊急支援の経験については「時々ある」が大半を占め (63%)、食糧支援（67%）・生活用品の提供 (50%)・相談対応 (33%)・行政や社会福祉協議会へのつなぎ (33%) が行われていた。

（2）緊急支援が必要となるきっかけ

「DV・家族トラブル」をきっかけとする事例が多く (50%)、ついで「収入減少・失業」(33%)、「不登校・ひきこもり」(33%) がきっかけとなっていた。2025 年９月以降の物価高騰の影響については、「利用者が増えた」「食材・物資確保が難しくなった」「支援の質・量を維持することが難しくなった」と言う回答が見られた（それぞれ 38%）。

（3）食品支援によるニーズ発見と関係構築

食品支援がニーズ発見につながったかという問いに対し、「非常につながっている」(13%)、「ある程度つながっている」(75%) と、ほとんどが肯定的な回答であり、食品支援がニーズ発見につながっていることが示された。また、食品支援をきっかけとして、多くの団体で「体験活動（工作・イベント）」の支援につながっており (63%)、食品支援が体験格差縮小につながったことがわかる。また、「学習支援」(25%) や「家庭訪問･食品配達」(25%) など、食品支援をきっかけとして多様な支援にもつながった。

一方で、緊急支援を行う際の課題については、ほとんどの団体が「財源の確保」(86%) を挙げており、今後も必要な財政措置や寄付が必要であることがわかる。また、「人手不足」(71%)、「ボランティアの継続性」(57%) など、活動を支えるスタッフの募集と継続の課題が挙げられた。

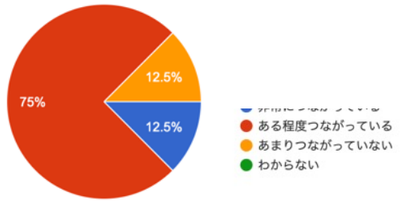


図 1 食品支援がニーズ発見につながったか

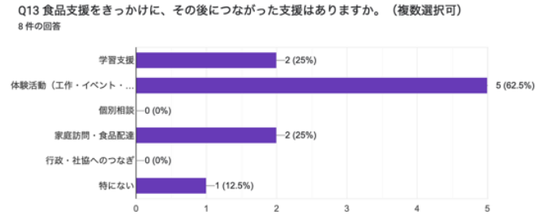


図 2 食品支援をきっかけにつながった支援

3. ネットワークと連携

（1）現在の連携状況

NPO・ボランティア団体との横の連携が中心であり (88%)、行政・社会福祉協議会・企業・宗教団体（それぞれ 50%）、学校・教育機関（25%）、医療機関・福祉事務所 (13%) と続く。
定期的な会議や勉強会を通じた情報共有・連携が中心となっている (63%)。本事業を通じて、「支援の幅が広がった」(63%)、「他団体との連携が進んだ」(50%) と言う変化が見られた。

（2）官民・多セクター連携に向けた課題

連携を進める上で「代表者同士だけでも出会いが必要」と、顔の見える関係の中で、お互いの想いや目標の共通認識をすり合わせることが重要とされた。また、本当に支援が必要な家庭に届けるためには、「細かく詮索しない」と言う意見もあった。

（3）今後、必要な支援

「活動資金の助成」(88%) が最も多く、ついで「食材・物資の安定供給」「広報支援」（それぞれ 63%）、「ボランティア人材の確保」(50%) が挙げられた。「困っている家庭を発見するためには、見守りつながり活動の携わる支援者との情報共有ができたらよい」「（自然災害などの際に）置き去りにされる方が起こらないよう日常的なつながりが必要」と言う声や、「全体像を共有」するとともに「具体的な対象者の事例を挙げて支援の具体的な動きを検討する」ことが必要という声があった。

法人理念・事業一覧

ひとりぼっちのいない まちをつくる

一般社団法人 タウンスペース WAKWAK

ビジョン（めざす社会）

“ ひとりぼっちのいないまち ” をつくる

ミッション（存在意義）

・個人、団体、地域をつなぐハブとなり、出会いやまちの “ わくわく ” を創造する場を創ります。
・制度から取り残され、社会から孤立させられている人たちに光をあて、多セクターとの共創により、誰にとっても住みやすいまちを創ります。

アクション（行動・軸）

私たちは「ひとりぼっちのいないまち（社会的包摂）」の実現のため、「ローカリティ（包摂のコミュニティづくり）」と「インターミディアリー（中間支援）」の２つのベクトルで地域と社会に働きかけを行います。

事業一覧

タウンスペース WAKWAK では、「ひとりぼっちのいないまち（社会的包摂）」の実現のため、「富田エリア事業（ローカリティ）」と「中間支援事業（インターミディアリー）」の２つの柱で事業を展開しています。

1 富田エリア事業（ローカリティ）

高槻市富田地区を対象エリアに多様な団体のプラットフォームの役割を担いながら子どもから高齢者までを対象とした官民、多セクター連携による「切れ目のない支援」の構築をめざし多岐にわたる事業を行っています。

2 中間支援事業（インターミディアリー）

高槻市域全域を対象に広く多様な団体や人たちの協働によるネットワーク化を通じて、「中間支援」としての活動を行っています。

3 視察受け入れ / 講師派遣事業

4 調査・研究開発事業

5 その他事業

地域・家庭・学校・行政
・大学・企業などと協力しながら

ひとりぼっちの
いないまちをつくる!!

1 地域との協働
まちづくりに住民の力を活かす

事業を支える住民のボランティア

子どもの居場所づくり事業をはじめ当法人の事業は多様な住民のボランティアによって支えられています。

こども食堂での地元校区民生委員児童委員中川さん親子による調理、わくわく食堂では、普段高齢者会食サービスのボランティアをされているボランティアサークル「ひまわり」の皆さんによる調理、元富田保育所の保育士さんによる「よちよちコーナー」、善太鼓の演奏、手話サークルトライアングルの皆さんによる手話うた、風の子文庫による絵本の読み聞かせや子どもの居場所、地元老人会による高齢者みまもり活動などなど。地縁組織ならではの、たくさんの住民の皆さんに支えられて事業の運営を行っています。

2 大学との協働
まちづくりに大学生の力を活かす

学校教員や保育士、福祉職を目指す大学生や大学院生の力

これまで連携をいただいている平安女学院大学、大阪人間科学大学、関西大学に加え、新たに大阪大学との連携を図っています。

一つは「共創知」を生み出す場をテーマに産官社学連携による仕組「OOS(大阪大学オムニサイト)」の協定を 2019 年 9 月 20 日に締結しました。

もう一つは「未来共生イノベーター博士課程プログラム」の一環として大学院生が地方公共団体や NPO などに出向き実践から学ぶ「公共サービスラーニング」の実習先となり、2019 年 10 月からインターン生の受け入れがスタートしました。

子どもの居場所づくり事業には、将来学校教員や保育士、福祉職を目指す学生さんなどたくさんの大学生や大学院生がかかわってくれています。様々な子どもたちと学生の時に関わり、そこで学んだことを現場に巣立った時に活かしてもらえたらと願っています。

3 地元学校園「ゆめみらい学園」 との協働

【ほっと Station】

「いまとみらい」

「いまとみらい」をテーマに総合的な学習の時間を通じて社会参画力の育成を図っている高槻市立富田小学校・赤大路小学校、第四中学校、富田保育所・幼稚園の園児・児童・生徒が共生食堂「富田わくわく食堂」をはじめ多様な事業に携わって頂いています。

昨年、高槻市立富田小学校5年生の総合的な学習の時間の取り組みで、子どもたちが大阪北部地震による災害支援から学んだことを冊子化し、チャリティグッズとして制作。わくわく食堂において取り組みの発表とともに冊子のお披露目をしていただきました。この取り組みに協力させていただきました。

「社会の温度計をあげよう」をテーマに高槻市立赤大路小学校5年生によるわくわく食堂での発表。

「レガシー」をテーマに高槻市立第四中学校3年生が地域の方々へこれまでの感謝を伝えるというテーマにてわくわく食堂の看板を作成し、届けてくれました。

3 企業との協働 「SDGs」パートナーシップの実践

この間､わくわく食堂へのサンスター（株）による歯ブラシのご提供、TOA（株）や大阪ガス（株）によるワークショップ開催､ふーどばんく OSAKA やダイエーフードドライブによる食品のご提供をいただいています。また、新たに丸大食品（株）も食材のご提供をいただくことになりました。企業様のご支援に改めて感謝申し上げます。

「SDG ｓトレイン　未来のゆめ･まち号」

子どもの居場所づくり事業は2018年度より阪急阪神ホールディングスグループ（株）が行う「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」より助成を受け実施しています。

同グループが阪急阪神　未来のゆめ・まちプロジェクト10周年を記念して「SDG ｓトレイン 未来のゆめ・まち号」を運行。

同グループや国・沿線自治体・協賛企業・市民団体のSDG ｓの取り組みについて車両ラッピングや車内ポスターで情報発信を行う中で当法人の取り組みについてもご紹介いただきました。

トピック

トピックス1

政府（内閣府）広報において放映されました。

政府（内閣府）広報番組「子どもたちの未来のために」
～地域に根ざす支援の現場～

多セクター協働による包括支援

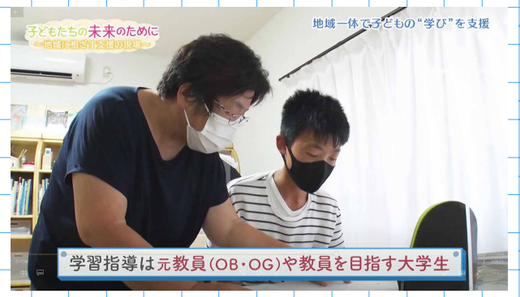
子どもたちの未来のために

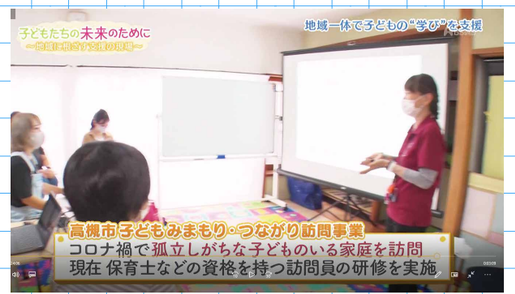
内閣府からご依頼をいただき、2021年7月に当法人の子どもの居場所づくり事業の一つである「学習支援事業わんぴーす」および「フードパントリー」等についてテレビ朝日映像株式会社に取材いただきました。その様子が内閣府特番としてこの度、放映されました。

コロナ禍で孤立が進む今。子どもたちの暮らしと学びを支える草の根活動が全国に広がっていると言います。そこで、つるの剛士がその支援の現場を訪ねます。東京都豊島区『いけいけ子ども食堂』の活動と人々の想いを取材。また、板橋区『地域リビング プラスワン』で行われているのは、『おうちごはん』という取り組み。さらに「学び」に対する活動について探るため、大阪府高槻市富田町の『コミュニティースペースNikoNiko』へ。子どもたちを支える活動を通し、日本の未来を見つめます。（番組公式ホームページより）

子どもたちを支える包括支援

取材では、タレントのつるの剛士さんが富田地区に来られ、地域に根ざす支援の現場として行政、大学、学校、企業、民間の連携による子どもたちの包括支援をテーマに取材いただきました。





トピックス2

日本テレビ　「24時間テレビ～愛は地球を救う～」において放映されました！

毎年恒例の日本テレビのチャリティ番組「24時間テレビ～愛は地球を救う～」が2025年８月30日・31日に放映され、当法人の大阪北部を対象とした緊急食支援の様子と子ども第三の居場所ニコニコひろばの様子が放映されました。

今年のテーマは「あなたのことを教えて」2025年のマラソンランナーである横山裕さん（SUPER EIGHT）がニコニコひろばを訪れ、当法人事務局長と「緊急食支援の必要性」や「子ども支援」について語り合いました。また、この取り組みは、放送翌日に放映された特番「完全密着！横山裕24時間マラソンの裏側」や24時間テレビアフターストーリー（10月）、翌年2月には『ZIP！』でも日本全国に放映され、地域内外、全国から多くの反響をいただくこととなりました。

① 大阪北部緊急食支援

現在、貧困家庭が置かれている状況は厳しく、満足にご飯が食べられない家庭も多くあること、WAKWAKがそんなご家庭に支援パックを届けていることをお伝えしました。食べ盛りのこどもが満足にご飯を食べられない状況を我が事のように心配して下さる横山さんの姿が印象的でした。その後、支援パックの袋詰めをスタッフと一緒に行いながら、ご自身の家庭についてお話して下さった横山さん。そこで語られた、愛情あふれるお母さんのお話にスタッフも思わず目頭を熱くしました。

②子どもの居場所でのみんなでタコ焼きづくり

また、横山さんと、ニコニコひろばの子ども達で一緒にタコ焼きづくりをしました。飾らないその姿に子ども達も「面白いお兄さん」と、すぐに横山さんが大好きに。その後、マラソンを走る予定の横山さんに子ども達とスタッフから「マラソン頑張って」の気持ちを込めて色紙をプレゼント。横山さんがとても喜んでくれたことが子ども達にも伝わったようで、「横山さん喜んでくれてたな！」と、スタッフに嬉しそうに言ってくる子どももいました。

無事、マラソンを走り切った横山さん。後日、集まった寄付金をどのように使うことが良いのか、相談しにニコニコひろばに来られました。そして、当法人事務局長と、「支援をするには何を準備するのが一番いいだろうか…」というお話をされ、３月に支援内容が無事に決まったとのことをテレビで拝見しました。横山さんの思いが、必要とされるご家庭に届くことをニコニコスタッフ一同、心より願っています。日本テレビの皆様、横山さん、本当にありがとうございました。

トピックス3

全国に発信し他地域の課題解決の一助に

私たちが願っているのはこの地域でつくる支援の仕組みが他地域の課題解決の一助になることです。この間、様々な場面でのご紹介をはじめ光栄な賞などをいただいています。これらを通じて微力ながら全国に発信を行っていきたいと考えています。

1 日本地域福祉学会「地域福祉優秀実践賞」を受賞

この度、タウンスペース WAKWAK が光栄にも日本地域福祉学会が行われている「地域福祉優秀実践賞」を受賞させていただきました。

この賞は 2004 年度に地域福祉の優れた実践を顕彰するために設置された賞で今回で第 21 回目となります。
日ごろ大変お世話になっている加納恵子先生（関西大学）よりご推薦いただき受賞する運びとなりました。

２０２４年度６月に開催される日本地域福祉学会第 38 回大会（東京大会）の授賞式に出席させていただき、その後報告会にて実践報告させていただきます。

このような光栄な賞をいただき感謝申し上げます。

2 WAM（社会福祉振興助成）の特に優れた事例選定

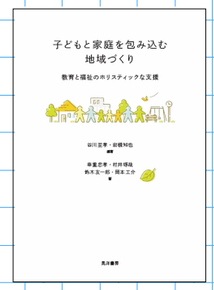
2023 ～ 2024 年度に社会福祉振興助成として採択された「子どもから高齢者の切れ目のない支援を多セクター共創で生み出す事業」について、外部有識者・評価委員会から全国の助成 123 団体中、非常に高く評価できる水準の S 評価４団体の一つとして選定いただきました。

3 関西大学人権問題研究室紀要論文に実践を掲載

これまでの富田地区および高槻市域の実践について、「高槻市富田地区包摂型のまちづくり - 子どもの居場所づくり事業を中心に」、コミュニティ再生事業の取り組みは、「多セクターとの共創による包摂型コミュニティ生成」、市域全域を対象とした取り組みは「居場所の包括連携によるモデル地域づくりに向けたアクションリサーチ」としてそれぞれまとめています。インターネットでもご覧いただけますのでぜひご覧ください。

4 『子どもと家庭を包み込む地域づくり』発刊

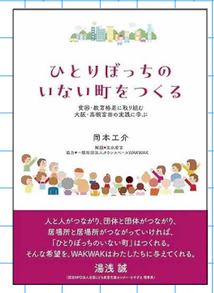
『子どもと家庭を包み込む地域づくり - 教育と福祉のホリスティックな支援』



京都女子大学の谷川至孝先生、岩槻知也先生からお声がけいただき、それぞれ大津「子どもソーシャルワークセンター」理事長幸重忠孝さんや京都「山科醍醐子どもの広場」代表理事村井拓哉さん、「沖縄ももやま子ども食堂」理事長鈴木友一郎さんなどとともにタウンスペース WAKWAK における富田地区の子どもの居場所づくりについて執筆させていただきました。

5 『ひとりぼっちのいない町をつくる』発刊

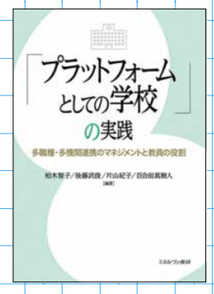
『ひとりぼっちのいない町を作る - 貧困・教育格差に取り組む大阪・高槻富田の実践に学ぶ』明石書店



富田地区及び高槻市域全域を対象とした取り組みを実践書としてまとめ明石書店から出版しました。監修には志水宏吉（日本教育社会学会会長）、コラムとして学識者はもとより地域関係者、学校関係者、NPO 関係者などさまざまな方々から寄稿いただいております。

6 『プラットフォームとしての学校の実践』発刊

『プラットフォームとしての学校の実践 - 多職種・多機関連携のマネジメントと教員の役割』ミネルヴァ書房



立命館大学の柏木智子先生からお声がけいただき、NPO としての立場から学校との協働についてタウンスペース WAKWAK における富田地区の子どもの居場所づくりについて執筆させていただきました。

7
多セクターとの共創の活動に対し大阪大学大学院「独創的教育研究活動賞」を受賞

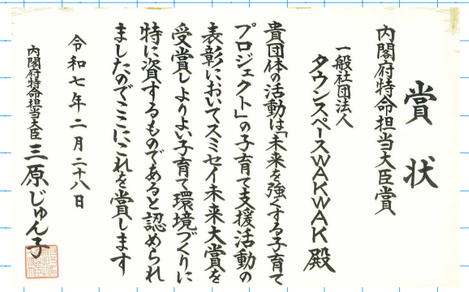
2020 年は、多セクターとの共創による「コミュニティ再生事業」の取り組みが大阪大学国際共創大学院による「独創的教育研究活動賞」（「多セクターとの共創による新たな多文化コミュニティづくりによる共創知の生成」）を受賞。

2021 年は高槻市域の取り組みに対し、「多セクターの共創による社会的不利を抱える家庭の要支援状況の可視化によるソーシャルアクション」を受賞しました。

8
スミセイ子育て支援表彰「内閣府特命担当大臣賞」受賞

2025 年 2 月 28 日、東京国際フォーラム会館で開催された住友生命さまの子育て支援活動表彰式において栄えある大賞・内閣府特命担当大臣賞を受賞させていただきました。選考委員のみなさまからは「自分達独自の活動に加えて、まちづくりや地域全体の生活支援など幅広く取りくんでいる点やネットワーク形成を高く評価させて頂いた」との過分なコメントも頂き、三原順子・内閣府（子ども政策等）特命担当大臣名の表彰状、住友生命さまより盾を贈呈頂きました。

３月９日にはそのご報告に高槻市長に表敬訪問をさせて頂きました。


賞状

内閣府特命担当大臣賞

一般社団法人
タウンスペースWAKWAK殿

貴団体の活動は未来を強くする子育てプロジェクト」の子育て支援活動の表彰において、スミセイ未来大賞を受賞しよりよい子育て環境づくりに特に資するものであると認められましたのでここにこれを賞します

令和七年二月二十八日

内閣府特命担当大臣 三原じゅん子

9
国会議員によるオンライン視察・ヒアリングをお受けしました

2022 年 2 月 9 日 (水) 午後 5 時 15 分より超党派の国会議員で構成されている「休眠預金等活用推進銀連盟（会長：加藤勝信衆議院議員 / 前官房長官）」による視察・ヒアリングを受けさせていただきました。

視察・ヒアリングは衆議院議員会館会議室と ZOOM をつないでのオンライン形式。視察・ヒアリングを受けさせていただいたのは、タウンスペース WAKWAK を含む関西エリア６団体です。

ヒアリングでは各団体から助成事業についての概要説明の後、出席国会議員からの質疑応答形式で進められ、議員連盟からは約 30 名の衆参国会議員が参加いただきました。

10
厚生労働省・こども家庭庁を通じた実践報告

2023 年 5 月 18 日（木）は、認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえさんからご依頼をいただき、厚労省・こども家庭庁の方々へ高槻市における「厚労省ひとり親等の子どもの食事等支援事業」の実践について報告。

2025 年 3 月 5 日（水）は、同じくむすびえさん主催の「こども家庭庁支援対象児童等見守り強化事業・オンラインセミナー」に登壇。全国の市町村や社協さんなど約 200 名ほどの方々がご参加。

この間、高槻市における官民連携による包摂ネットワークの構築について報告いただく機会をたくさんいただいております。市町村レベルで好事例を生み出し全国へ積極的に発信したいと思っております。

支援の呼びかけ　寄付の方法

WAKWAK サポーターになる / 活動を応援する

今不利を抱えている人だけでなく、そうではない人も子どもから高齢者まで、誰もとりこぼさない地域が必要です。
わたしたちは、富田での切れ目のない支援を目指したまちづくりと、高槻市域全体により多くの支援を届ける中間支援としての取り組みの２つのベクトルでさまざまな人たちとこの社会課題に向き合っています。この取り組みは富田をモデルに、高槻市全域、さらに全国へ広がります。
そんな「ひとりぼっちのいないまちづくり」を持続可能なものにするためにWAKWAK サポーターとして一緒に取り組みを応援してください。
サポーター制度の他、さまざまな応援方法をご用意しています。すべての応援についてご登録たいだいた方には、年に２～３回発行している WAKWAK 通信等を送付し、活動内容をご報告させていただきます。

WAKWAK サポーターとして仲間になる！

WAKWAKサポーター（毎月）1,000円～/月

WAKWAKサポーター（毎年）3,000円～/年

支払い方法は、カード各種 /Apple Pay/Google Pay に対応しています。
※ 株式会社コングラントの寄付プラットフォームを利用しています。

▶お申込み方法：QR コードを読み込むと寄付決済ページが表示されます。
「寄付をする」をクリックするとご希望の金額から簡単に寄付することができます。

01 「今を支える」寄付をする！

タウンスペースWAKWAKへの応援　1,000円～

▶お申し込み方法

クレジットカードの場合

支払い方法は、カード各種 /Apple Pay/Google Pay に対応しています。
※ 株式会社コングラントの寄付プラットフォームを利用しています。
QR コードを読み込むと寄付決済ページが表示されます。
「寄付をする」をクリックするとご希望の金額から簡単に寄付することができます。

銀行振込の場合

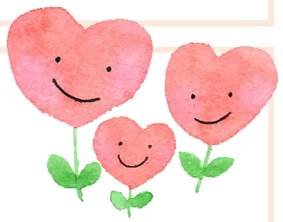
下記の口座までお願いいたします。

銀 行 名　北おおさか信用金庫　富田支店
種　　別　普通口座
口座番号　0554063
名 義 人　一般社団法人タウンスペース WAKWAK 代表理事　岡本茂

お振り込み後、お手数ですが、
①住所 ②お名前 ③活動報告送付のご希望　④領収書のご希望
を以下のメールアドレスまでご連絡ください。

WAKWAK 事務所へ直接の場合

タウンスペース WAKWAK へご持参ください。
〒 569-0814　大阪府高槻市富田町 2 丁目 13-8　ハイツ白菊 1F



02 ボランティアとして活動に参加する！

参加を希望する活動や、参加しようと思った理由とともに以下のメールアドレスまでご連絡ください。

03 食材や備品の寄付をする！

社会貢献活動として支援を届けたいと検討されている法人・企業のみなさま、活動に使えそうな物品の支援を検討されるみなさまは以下のメールアドレスまでご連絡ください。

info@ts.wakwak.com

支えてくださった団体・個人の皆様

●企業・団体寄付 (敬称略・順不同)

サンスター株式会社	丸大食品株式会社	株式会社ミートモリタ屋
株式会社宮田運輸	イオンフードスタイル	ジャトー株式会社
大阪ガス株式会社	住友生命株式会社	TOA株式会社
アサヒ飲料株式会社	フードバンク大阪	阪急阪神　未来のゆめ・まちプロジェクト
子供の未来応援基金	WAM (社会福祉振興助成事業)	一般財団法人 日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)

全国こども食堂支援センター・むすびえ	ヒューファイナンス	日本財団
こども夢基金	大阪コミュニティ財団	熊西地域振興財団
赤い羽根共同募金	大和証券財団	楽天未来のつばさ
大阪商工信用金庫	太陽生命厚生財団	大阪府人権協会
部落解放人権研究所	高槻市	●個人として寄付をくださったみなさま ●正会員・賛助会員みなさま ●WAKWAKサポーターのみなさま ●活動を支えてくださった関係者のみなさま

あとがき

ー「動く」というのはそういうことー

実践の中で様々な壁にあたるとき、いつも助けられる言葉がある。

「それでも 1 ミリを進める」社会活動家湯浅誠さんの言葉。この言葉にこれまでどれほど救われたかわからない。そして、今も新たに『つながり続ける子ども食堂』（中央公論新社）で新型コロナ禍にステイホームが言われる中でも子どもたちや家庭の状況を見て活動する子ども食堂運営者の様子を描いた湯浅さんの言葉に助けられている。

「子ども食堂の人たちの中で、目立つことを狙って活動を継続した人は一人もいなかったと思う。みんな、止むに止まれぬ気持ちで、この状況下でも自分たちでできることは何かと考え、できることに着手した。その結果、通報もされたが、支援を集めもした。じっとしていれば、通報されることもなかったが、支援が集まることもなかっただろう。『動く』というのは、そういうことだ。」

新型コロナ禍で支援の必要性が広がるのを目の当たりにしながら、これまでは法人として地元富田地区を対象に支援のひな型を創ることに注力していた。けれど、「果たして困っているのはうちの校区の子ども達だけなのか？」、そう自らの心に深く問いかけた時、様々な社会的不利を抱える子ども達に支援が必要な状況が切迫して生まれている状況が浮かび上がってきた。そこから人生そのものに深くコミットし、そこで得たインスピレーションをもとに事業の「画」（事業計画、財源、実施体制、スケジュール等）を描いた。そして、その画（むすびえ休眠預金事業「居場所の包括連携によるモデル地域づくり全国」は 2021 年度に採択をいただき、これまでの法人のコンセプトも体制も対象範囲もすべて組み替える決断をし支援対象範囲を高槻市域全域に拡大した。そこで描いた画は、子ども分野を主軸に据えた分野を超えた連携であり官民が協働する全国モデルづくりだった。そして、2025 年度は WAM 助成を受けさらなる支援の裾野を広げることができた。

コロナ禍であえて活動を生み出すのは試行錯誤の連続であり、ここには書けない壁となることもたくさんあった。きっとこれからもある。ただ、社会を変えていくために「動く」というのはまさにそういうことなのだと思う。

そして、その思いに賛同してくださる人たちにはどれほど助けられ、支えられたかわからない。市域全域を対象として発足したネットワークは 2026 年 3 月時点で 96 団体となり、NPO や市民活動はもとより企業による支援、行政や社協との協働による支援、医療関係からの支援、浄土真宗をはじめとする宗教界からの支援など多岐にわたり支援の裾野も徐々に広がってきた。当法人単独では到底できないことがセクターを超えた多くの方々のお力添えとご協力により支援が広がりつつある。

ある印象的な言葉がある。当法人の市域全域の事業に携わるボランティア研修で、あるボランティアさんが分かち合ってくださった言葉。事業の総括をする中で、「この活動のあなたにとってのやりがいは？」という問いに「自分が今手探りで行っているこの小さな動きが PDCA をまわして全国へと広がり、本当に困っている家庭への助けにつながります様に・・・と考えながら活動していました。」という言葉。心が震え、じーんときた。

この実践を行う決断をしたとき、この地で子どもの貧困をはじめとする課題解決のための支援のひな型をつくりそれを全国へ発信し全国のフロントランナー実践に押し上げる、そのビジョンを掲げ走り始めた。それは、ここでの実践が市域全域の社会的不利を抱える子どもたちを含めすべての子ども達に届くことと同時にその実践を通じて得られたエッセンスが日本全国に広がることで、より多くの人たちに届けばとの願いそのものだった。

微力ながら重ねた実践があなたやあなたにつながる人たちのもとにも届くことを願って・・・

2026 年 3 月 31 日

一般社団法人タウンスペース WAKWAK

業務執行理事兼事務局長　岡本工介

WAKWAK ができるまで

- 新しい福祉のまちづくり「受ける福祉から担う福祉・共に創る福祉」 -

1994.6　「子ども・女性・高齢者・障がい者の人権ネットワーク」を設立

2001.2　高槻富田地域で「新しい福祉のまちづくりプロジェクト」の結成
（障がい者施設づくり、高齢者・障がい者生きがい事業団、住民参加の各プロジェクトのたちあげ）

2001.9　社会福祉法人つながり設立準備会結成
（1700 万円を目標に施設賛同基金に取り組み、住民参加の施設づくりのためのワークショップ開催）

2003.4　高槻富田地域に知的障がい者通所支援施設「サニースポット」（定員 50 名）が開設

- 地域の再生とまちづくりへの新たな歩み -

2006.6　富田まち・くらしづくりネットワーク結成
（地域一斉清掃・盆踊りの復活によるコミュニティの再生、富寿栄連合自治会・老人会の再建など）

- 新たな福祉と人権・協働のまちづくり事業構想に着手 -

2010.9　タウンスペース WAKWAK 事務所開設

2012.2　設立総会と一般社団法人認証取得

2012.4　新たな福祉と人権・協働のまちづくり事業がスタート

WAKWAK の事業展開

- 新たな福祉と協働のまちづくり事業 -

2012.4　障がいのあるないの垣根を超えるボーダレスアート事業
地域福祉グランドデザイン事業

2014　学習支援わんぴーす

- 社会的企業としての包摂型のまちづくり事業 -

2017.1　事務局強化（新事務局長）と社会的企業として包摂型のまちづくりのスタート

2017.4　「ただいま～と言える子どもの居場所づくり事業」
「社会的養護の子どもたちのバックアップ事業」

2018.5　行政の受託に頼らない社会的企業の仕組の確立

- 法人役員体制の強化と新理事（学識経験者）の就任 -

2018.6　大阪北部地震の発災と災害支援の取り組み

2019.7　休眠預金活用事業「未来にわたり住み続けたい町（コミュニティ再生事業）」

2021.6　休眠預金活用事業「居場所の包括連携によるモデルづくり事業（全国）」
高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業（厚労省支援対象児童等見守り強化事業）

2022.8　こども家庭庁「ひとり親等の子どもの食事等支援事業」

2023.4　WAM 助成「子どもから高齢者までの切れ目のない支援を生み出す事業」

- 事業体と中間支援の両輪 -

2024.4　富田エリア (ローカル)、市域エリア (インターミディアリー) の両輪での活動本格スタート
日本財団子ども第三の居場所「NikoNiko ひろば」
休眠預金活用事業　「未来にわたり住み続けたい町（コミュニティ再生事業）」第２弾

2025.5　休眠預金活用事業　大阪北部６市町村を対象とした緊急食支援および体験格差是正事業

制作：一般社団法人タウンスペース WAKWAK
デザイン・装丁：イーチ合同会社

本事業はＷＡＭ助成（社会福祉振興助成事業）を
受けて実施しています。